

大学短歌会の今 佐藤博之

近年、大学短歌会が盛り上がりを見せてきた。多くの大学で短歌会が開設され、また多くの会員を集めて卒業後も活躍する歌人も多い。しかしコロナ禍により、多くの大学短歌会が影響を受けた。多くのサークル活動の制限により対面形式の歌会が開催できなくなり、また新入生歓迎活動に大きな制限を受けた。オンラインでの活動も含めて工夫しながら活動を継続してきた。

例年、秋の文学フリマ東京や年明けの文学フリマ京都では、大学短歌会も多く参加して会誌を頒布する。今年は文学フリマ東京では東京大学Q短歌会が出店し、早稲田大学短歌会が二月発刊の会誌を委託販売した。文学フリマ京都では、同志社短歌・九大短歌会・神戸大学短歌会・関西大学短歌会・立命短歌会が参加した。「Q短歌会」4（東京大学）は十五名の作品と会員相互評・一首評の他、野口あや子へのインタビュを掲載する。

・ゴルゴダ・オブ・ザ・デッド（朝の光さえ斜面滑っていった。
アハハハ） 焔元 鳳「Q短歌会」4

・葉のように千円札が落ちている 拾い上げてみると顔がある
酒田現 同
・大きい魚は パチンコ屋だけが 小さい魚を うるさい 食べ
る 佐藤翔 同

「神大短歌」8（神戸大学）は五名の現役会員・一名のOG作

品の他、川柳・付け句作品、活動年譜からなる。

・今月でいなくります 手を振った君の残滓は♡（ファボ）+1

・春は変質者 あめ玉を舐めつづけると唾液が甘くなる春だから
奥村鼓太郎 同

・かきはじく爪の無音はあずさゆみあらたまのあしひきの恋の頂
府田確 同

昨年結成十周年となる「九大短歌」14（九州大学）は会員九名の作品の他、エッセイ・連歌歌会録・活動記録が読める。

・雁木小僧は川邊に居て魚をとりくらふ。その齒の利き事やすりの如し。
合田 陸「九大短歌」14

・音があるわたくしの豎式洋琴には鳴らない音がある 音がある
長尾義明 同

・選ぶなら春がいい 報せたいことのいくつも取り出すコイン
ロッカー 神野優菜 同

既に言及の多い話ではあるが、これらの学生短歌会誌の短歌には、多くの共通する特徴が挙げられる。口語新仮名、散文的な文体、大胆な字余りや句またがり、倒置や反復法の多用、句切れの多さ、字空けや句読点の多さ、括弧内に語句を括る表現、長い外来語（片仮名表記・漢字振仮名表記・原語表記）の使用、枕詞の被枕からの解放など。また、焦点を絞る歌より詩的に飛躍展開する傾向が強い様に感じる。傷や希死念慮、狂気などを直接的に詠み込むことも多い。その中で正仮名正字口語文語混淆のスタイルで詠む学生歌人の居ることは特筆したい。

学生短歌会の一つの大きな潮流であり、継続して見守りたい。